都道府県別賞一等

安心は人の心を支える

福島県　いわき市立草野中学校　三学年

佐倉　望恵佳

私の将来の夢は、ナースエイドになることです。この夢を持ったきっかけは、私自身の入院経験です。私は持病があり、何度か入院したことがあります。慣れない病院で過ごす時間は、私にとってとても不安なものでした。家族と離れて過ごすことや、自分の体のこと、これからどのような治療を受けるのかということなど、不安な気持ちでいっぱいだったことを今でも覚えています。学校の友達に会えないことや、これからの生活への心配もあり、気持ちが落ち込む日もありました。

そんなとき、私の気持ちを支えてくれたのがナースエイドの方でした。病室で過ごしているとき、その方は仕事で忙しいのにもかかわらず、私が悩んでいることや不安に思っていることを優しく聞いてくれました。何気ない会話をしたり、「大丈夫？」と声をかけてくれたりするだけでも、とても安心したことを覚えています。病室で一人になると不安な気持ちが大きくなってしまうこともありましたが、話を聞いてもらえる時間は、その不安を忘れさせてくれる大切な時間でした。自分の気持ちを誰かに聞いてもらえるだけで、心が少し軽くなり、『一人じゃない』と思うことができました。薬や治療だけでなく、人の優しさにも人を元気にする力があることを、そのとき初めて実感しました。この経験があったからこそ、私も患者さんの気持ちに寄り添い、不安を少しでも和らげられるナースエイドになりたいと思うようになりました。

今回、「生命保険」について考え、生命保険について調べる中で、生命保険は私たちの生活を支える大切なものだと知りました。生命保険は病気やケガを治すものではありません。しかし、もし病気や事故で治療が必要になったり、家族が働けなくなったりしたとき、治療費や生活費などの負担を支えてくれます。その安心があることで、患者さんや家族は治療や生活に向き合いやすくなるのだと思いました。

私が入院していたとき、私は自分の不安や苦しさで精いっぱいでした。そのため、家族がどんな気持ちで私を支えてくれていたのか、深く考えることができていませんでした。しかし、今振り返ると、家族も私の体のことだけでなく、治療費やこれからの生活について心配していたのではないかと思います。病院では、医師や看護師、ナースエイドなど多くの人が患者さんを支えています。そして病院の外では、生命保険が家族の生活を支えています。支える方法は

それぞれ違いますが、どちらも人に安心を届けるという大切な役割があります。私は入院していた経験を通して、人は一人で生きているのではなく、多くの人の支えによって生活しているのだと感じました。

将来、私がナースエイドになったら、入院中の私がしてもらったように、不安を抱えている患者さんの話をしっかり聞ける人になりたいです。患者さんが『この人に話してよかった』『少し安心できた』と思えるような存在になりたいです。そして、患者さんだけでなく、その家族の気持ちにも寄り添えるナースエイドになりたいと思います。

今回、生命保険について学んだことで、人を支える方法は一つではないということに気づきました。病院で直接人を支える仕事もあれば、生命保険のように暮らしを支える仕組みもあります。どちらも人が安心して生活するためには必要なものです。私も将来、人の気持ちを大切にし、安心を届けられるナースエイドになれるように、今できることを一つずつ頑張っていきたいです。